

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日: R7年3月7日

事業所名: 児童発達支援 児童発達支援事業所みらいキッズ

対象人数(保護者)26人 回答者数 19人 回収 73.1%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	3	1
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	19		
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1	
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19		
	⑥	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	1	
	⑦	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	19		
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2	
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19		
	⑩	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1	
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	6	2
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19		
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19		
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	2	
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19		
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	5	4
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19		
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19		
非常時 等の 対応	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19		
	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	6	
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	6	1
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1	
満足 度	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	2	
	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	19		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	18	1	
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	19		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		みらいキッズ久留米		公表日		R7年 3月 7日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	4	限られたスペースを定員が多いときは部屋を分ける公園に出かけて野外活動など工夫をしている。	周りの音が聞こえない部屋が一つあれば尚よいと感じる。スペース不足が子ども達の活動の保障や安全性に影響を及ぼしている。トイレが一つでトラブルが起こりやすい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			配置は適切だが、余剰がいた方が望ましい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	引き戸をスライドドアに変更したので安全面が高まった。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7				
適切な 支援の 提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		園側との連携をはかるため保育所等訪問支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7				
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		家族の困り感を聞き情報の共有、助言を積極的に行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		保護者を交えたイベントや参観日を設けて交流を促していく。兄弟で交流する時間を設ける子育てサポートも実施する。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		写真を使用する際は個人情報の扱いに十分配慮できるように個人情報顔出し有無のリストを作成して情報を共有している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止の観点からアンガーマネジメント研修を受講して、職員に対して情報の共有を行っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいキッズ久留米		
○保護者評価実施期間	R6年12月16日		～ R6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	R6年12月20日		～ R6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	R7年 1月 27日		～ R7年 2月 12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10件	(回答数) 10件
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療法・成功体験・食育の3本柱で専門的な支援ができて いる。	室内だけでなく自然に触れ合い外出する中で、交通ルール、公 共施設でのマナーなどを体験できるように野外活動を積極的に 取り入れている。	他事業所との交流を行い対人関係スキルの向上につなげる。 またどのようなイベントを企画してほしいか保護者へのアン ケートを実施することで保護者のニーズにも出来る限り、寄 り添える体制を目指す。
2	家族支援や子育てサポート、関係機関との連携を定期的 に実施することで現状の把握や情報の共有が密に行いことが できている。	ご家族の困り感をそのままにせず家族支援などにつなげて 困り感の軽減・解消に努めている。	兄妹支援や家族、関係機関とのつながりを大切にできるイ ベントの企画や研修の場を提供して学びを深める取り組みを 目指す。
3	小集団で社会性の発達を促し、専門的支援を個別支援で行 い学習や手先の機能にアプローチすることができる。	理学療法士が在中しており、より専門的な支援がうけるこ とができる。また研修受講も積極的に取り組み知識や技術の向 上を行っている。	様々な研修や専門家の助言を取り入れて色々な視点で支援の 幅を広げることで子どもの特性理解から支援のアプローチも 広がるよう取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中庭などがなく環境設備に限りがあり、月齢に合った運動量 の保証が課題だと思う。	保育所のような広い環境設備が整っていないこと。	活動や環境面を、個室の部屋と野外活動に月齢ごとに活動別 に分割して運動量を保障する。
2	児童発達支援事業所卒業後の移行先。	放課後等デイサービスとの繋がりが少ない。	放課後等デイサービスにアボをとり見学に出向くことで、保 護者に安心して移行先を紹介する。
3			